

朴 珠 抄

能村研三推薦

耕二忌や枯木は根元広くして  
着ぶくれてゐて正論を避けてをり  
組めば牛走れば豹のラガーかな  
もの言うて独りに気付く冬灯  
波音か雨かと聞かれ白障子  
一生の起点終点鮭帰る  
枯蓮の哲人顔を晒し立つ  
白鍵に指置く白き手套脱ぎ  
余生いま降りみ降らずみ初しぐれ  
父あらばきつとこの席白障子  
冬館鏡にシャンデリア無限  
裸木のそそり立つ空憂国忌  
累累と日本人なり柿の朱  
雪吊は百万石の系譜かな  
裸木になりて個性の際立ちぬ

甲州 千草  
吉田 政江  
能美 茅柴  
栗原 公子  
栗坪 和子  
峰崎 成規  
菊地 光子  
荒井千佐代  
上田 玲子  
古山 智子  
須賀ゆかり  
浜田はるみ  
村上 葉子  
澤田 英紀  
池田 文枝